

平成29年度ほほえみの森保育園自己評価表

A たいへんよい
B よい
C 一部検討を要する
D 改善を要する

平成30年6月公表

項目	内 容	評価				備考
		A	B	C	D	
保育目標について	(1) 保育目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			・今年度開園のため姉妹園参考。 ・職員会議・フロア会議で共通認識を図っている。
	(2) 目標は、前年度の反省を生かしているか。		○			
	(3) 目標は、全職員の共通理解を図っているか。	○				
保育について	(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。		○			・教具・教材は園児の成長・発達に合わせて頻繁かつ柔軟に変更。 ・園内で経験できない事は、地域の環境を活用して保育の充実を図る。 ・保育目標に沿った職員の自己評価を実施。振り返りを大切にする。
	(2) 保育所保育指針に基づく、援助・支援を適切に行っているか。		○			
	(3) 環境の構成を意識して保育や過程を常に工夫しているか。	○				
	(4) 素材・用具を適切に活用しているか。	○				
	(5) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。		○			
日・時・程	(1) 1日の流れ（デイリープログラム）は現行でよいか。	○				
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。		○			・在籍数に合わせ無理なく実施。 ・行事ごとに保護者アンケートを実施。それを踏まえて内容を検討。 ・日常保育から行事の発展につながる工夫を行っている。 ・在園児対象の公開保育を毎月実施。
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○			
	(3) 乳児・幼児の活動範囲を明確にし、自主的、実践的な活動にして	○				
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。		○			
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。		○			
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。		○		・フロア担当制、チーム保育で保育を推進。柔軟な体制を組めるように工夫。 ・毎日テーマや参加者を工夫して昼食を実施。多種多様な意見の発信を目指す。 ・個人情報については、家庭ごとの同意書に基づき適切に取り扱っている。
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○		
		(3) 職員の配置は適材・適所か。		○		
		(4) 係や仕事の分担は適切か。		○		
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○		
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむこ		○		
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。		○		
	クラス経営	(1) 0-1歳と2-5歳のクラス経営は、保育目標に基づき行わ		○		
		(2) 異年齢児及び同年齢児の効果的な活動の充実を図っているか	○			
		(3) チーム保育を適切に行っているか。		○		
	保健・安全指導	(1) 0-1歳と2-5歳の保健対策は適切に行われているか		○		
		(2) 避難訓練・防犯訓練・交通安全指導を適切に実施しているか。		○		
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発		○		
		(4) 乳幼児の安全確保のため、関係機関との連携を図っている		○		
	情報	(5) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○			
研修会・講習会について	(1) 各種研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	○			・他法人との共同による保育研修を実施。 ・法人研修・行政の研修プログラムに積極的に参加。	
	(2) 各種研修会、講習会への参加について、職員のニーズを把握して		○			
	(3) 各種研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。		○			
施設・設備	(1) 施設・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○		不審者の対応に関して、園児・保護者・職員の安全を最優先に警察に巡回を依頼する。	
	(2) 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。		○			
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。		○			
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	○				
出納・経理	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。		○			
開かれた保育所づくり	施設間交流・連携	(1) 他施設等と交流は、保育目標や課題に沿ったものになっているか。	○			・他施設との年長児合同キャンプ、幼児グループでの他施設訪問等、単発で終わらず計画性を持った上で数回は実施してきた。 ・保育者同士の交流については、法人内研修の位置付けとし、保育交流を実施した。 ・小学校との交流については、市の基幹システムの一環として園児同行での訪問事業に参加。ただ、日常的に行われはしない為再考が必要と感じる。 ・現状新規園である事も原因と考えるが地域に対し連携は程遠いので要検討とする。商店会には加入しているので、今後地域社会との触れ合いが課題である。 ・開園し即座に要支援家庭に対する連携を開始した。 ・全ての保護者に対し参加は任意であるが個人面談を実施。互いに成長を喜び合う取組を行った。 ・施設の情報提供に関しては随時連絡アプリシステムにて情報提供し伝え漏れの無い様気を付けている。 ・年2回の保護者対象育児講演会を実施した。
		(2) 他施設等の幼児と触れ合うことで、幼児が楽しく過ごし、充実感を味わう音ができるような配慮や援助・支援を行っている	○			
		(3) 保育者同士が合同研修を行い、互いの保育に対する理解を深め援助についての共通理解を図っているか。	○			
		(4) 参観に参加するなどして、小学校の教育を理解している			○	
		(5) 日常的に情報を交換し、交流活動に生かしているか。		○		
	地域との連携	(1) 保護者以外も対象とした参観日等を設定しているか。		○		
		(2) 幼児の興味や関心に基づいて、地域社会・その他の施設と交流しているか。	○			
		(3) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れて			○	
	子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭や保育室等を開放して			○	
		(2) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。		○		
		(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。		○		
		(4) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携をとり、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○		
	情報の発信	(1) 保育所だより・クラス通信、ホームページ等で、施設の情報を発信しているか。		○		
		(2) 行事や子育て支援事業等を地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか			○	
	外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。			○	
(2) 第三者委員制度を活用しているか。			○			